
プロジェクト報告

研究会の開催： グローバルガバナンスに関する若手研究

湯 浅 拓 也
和 田 洋 典

1. 概要

本研究プロジェクトの目的は、安全保障・平和構築・ナショナリズム・ジェンダーなどの問題領域におけるグローバルガバナンスの課題を検討することであった。2021年度に実施した研究プロジェクト「国際秩序の変容とグローバルガバナンスに関する若手研究」の成果を踏まえ、2021年度に取り上げることができなかったテーマを中心に、グローバルガバナンス論に関する今日的課題について検討を行った。

プロジェクトのメンバーがそれぞれ研究を進めるとともに、国際政治経済学研究科に所属する大学院生や修士生を中心とした若手研究者からなるグローバルガバナンスに関する研究会を2回実施した。

2. 研究会の記録

第1回研究会

日時：2022年9月19日(土)10時～12時

形式：ハイフレックス型（Zoom／国際研究センター会議室8号館4階）

報告：高橋雅英さん（中東調査会 研究員）

「フランスの対ロシア関係：第三国介入をめぐる協調・競合関係」

李天寵さん（国際政治経済学研究科 博士後期課程）

「ポストコロナ時代国際秩序の変容：自由主義国際秩序の変化」

討論：佐藤裕視さん（JICA 緒方研究所 リサーチ・オフィサー）

第2回研究会

日時：2023年1月7日(土)10時～12時

形式：ハイフレックス型 (Zoom／青山キャンパス17号館17710教室)

報告：藤田吾郎さん (一橋大学国際・公共政策大学院 非常勤講師)

「戦後初期日米関係史研究の現状と展望」

※備考：所属は研究会実施当時のもの

3. 成果

本研究プロジェクトの成果は、以下の2点にまとめることができる。第1に、研究プロジェクトの予算で書籍を購入することができ、また研究会での報告や討論を通して各自の研究を発展させることができた。第2に、外部研究者を招聘して研究会を開催することができ、グローバルガバナンス研究における新しい視点を得ることができた。地域研究や歴史研究を専門とする外部研究者との議論を通して、グローバルガバナンス論における今日的な課題について理解を深めることができ、今後の課題が明らかになった。特に博士課程に所属するプロジェクトメンバーは、研究会の場において、外部研究者などから建設的なコメントを受けることができ、博士論文執筆に大きな励みとなった。

本研究プロジェクトの成果を踏まえて、来年度も引き続きグローバルガバナンス論に関する研究、国際政治経済学研究科内の交流拡大に向けた取り組みを進めていきたい。新型コロナウイルスにともなう移動制限が撤廃されたことを踏まえ、2023年度には東京以外での開催を検討するなど、国際政治経済学研究科を中心とした研究者ネットワークの構築に向けた取り組みも強化していきたい。

本研究プロジェクトの研究会のご登壇いただきました佐藤裕視氏、藤田吾郎氏に感謝申し上げます。